

平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月10日

上場会社名 スパークス・グループ株式会社
 コード番号 8739 URL <http://www.sparx.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 阿部 修平
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 藤井 幹雄
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月13日

上場取引所 JQ

TEL 03-5437-9700

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	9,364	△61.7	△2,704	—	△3,280	—	△4,007	—
20年3月期第3四半期	24,446	16.2	6,605	△7.8	7,031	△8.6	3,113	△10.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	△1,993.49	—
20年3月期第3四半期	1,563.35	1,521.02

当第3四半期における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第3四半期	57,383	35,878	60.1	17,128.49
20年3月期	74,056	47,621	60.1	22,334.66

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 34,484百万円 20年3月期 44,499百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	0.00	0.00	0.00	1,000.00	1,000.00
21年3月期	0.00	0.00	0.00	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

現時点では配当予想額は未定であります。(「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」欄参照)

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

当社グループの主たる事業である投信投資顧問業は、業績が経済情勢や相場環境によって大きな影響を受ける状況にあります。このため、当社グループの業績を予想し開示することは難しいと認識しております。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
 新規 一社(社名)) 除外 一社(社名))

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
 ② ①以外の変更 無

(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご参照ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 2,075,680株 20年3月期 2,054,840株
 ② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 62,427株 20年3月期 62,424株
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 2,010,171株 20年3月期第3四半期 1,991,280株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1) 当社は、上記「3. 平成21年3月期の連結業績予想」に掲げた理由から、配当予想額についての記載をしておりません。配当金額が確定した時点で速やかに開示いたします。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日～平成20年12月31日）における上半期前半の株式市場は堅調に推移していたものの7月以降米国経済の先行きに対する不透明感が強まったこと等から株価は軟調な展開となりました。特に9月の米大手証券リーマン・ブラザーズの経営破綻以降、世界的に金融機関に対する信用リスクが高まったことを受け株価は大きく下落、米国の追加利下げの観測から外国為替市場では1ドル=87円台まで円高ドル安が進んだことも相俟って10月には日経平均株価は昭和57年以来約26年ぶりの安値となる7,000円を割り込む水準まで下落しました。経済状況を見ても日本の7-9月期の実質GDP(国内総生産)が年率マイナス1.8%となったことや企業短期経済観測調査（日銀短観）において大企業製造業の景況感が5期連続で悪化したこと等日本経済が悪化していることが確認される形となりました。年末にかけては取引高が少なくなる中やや反発し、当第3四半期連結累計期間の日経平均株価は8,859.56円で取引を終了しました。

当第3四半期連結累計期間は、株価指数では、日経平均株価が29.3%の下落、TOPIXは29.2%の下落となりました。セクター別には原油価格の下落や円高が好感されたパルプ・紙が上昇率トップになった一方で、バルチック海運指数の下落から収益懸念が嫌気された海運業が下落率トップとなりました。

このような株式市場の状況の下、当社グループの当第3四半期末における運用資産残高は、7,533億円（前期末比40.4%減、前年同月末比52.0%減）となりました。

運用会社別では、スパークス・アセット・マネジメント株式会社およびSPARX International (Hong Kong) Limited（以下、「スパークス・アセット社」）の運用資産残高が4,383億円（同38.8%減、同51.3%減）、Cosmo Investment Management Co., Ltd.（以下、「コスモ社」）の運用資産残高が1,610億円（同45.0%減、同56.1%減）、PMA Capital Management Limited（以下、「PMA社」）の運用資産残高が1,540億円（同39.9%減、同49.3%減）となりました。

営業収益は、残高報酬が81億4百万円（前年同期比34.2%減）、成功報酬が23億43百万円（同77.1%減）、その他収益が1億15百万円（同93.9%減）となりました。また、自己資金投資として保有している営業投資有価証券に関し、11億99百万円の評価損を計上いたしました。これらにより総額では93億64百万円（同61.7%減）となりました。

営業費用は、主に支払手数料の減少により17億50百万円（同44.6%減）となりました。一般管理費は、人件費の減少等により103億17百万円（同29.7%減）となりました。

この結果、営業損失は27億4百万円、経常損失は32億80百万円となり、第3四半期純損失は40億7百万円となりました。

項目	当第3四半期		前第3四半期		平成20年3月期	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
残高報酬	8,104	86.6	12,321	50.4	15,745	51.5
成功報酬	2,343	25.0	10,217	41.8	12,897	42.2
営業投資有価証券評価損益	△1,199	△12.8	-	-	-	-
その他	115	1.2	1,906	7.8	1,909	6.3
営業収益合計	9,364	100.0	24,446	100.0	30,552	100.0

・残高報酬

残高報酬料率（ネット・ベース）の推移は以下のとおりです。

区分	当第3四半期	前第3四半期	平成20年3月期
当社グループ残高報酬料率 （ネット・ベース） (%)	0.85	0.83	0.83

(注) 残高報酬料率（ネット・ベース） = (残高報酬 - 残高報酬に係る支払手数料) ÷ 期中平均運用資産残高

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末における資産は、前期末に比べ166億72百万円減少し、573億83百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が54億24百万円、未収投資顧問料が22億74百万円、営業投資有価証券が13億54百万円、未収入金が34億46百万円、投資有価証券が56億58百万円減少したこと等によるものです。

負債は、前期末に比べ49億30百万円減少し、215億4百万円となりました。主な要因は、短期借入金が3億6百万円、その他未払金が8億9百万円、未払法人税等が31億51百万円減少したこと等によるものです。

純資産は、前期末に比べ117億42百万円減少し、358億78百万円となりました。主な要因は、当第3四半期に四半期純損失40億7百万円を計上したこと等によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループの収益の大半は投信投資顧問業に係わる委託者報酬及び投資顧問料収入によって構成されております。通期の見通しにつきましては、当社グループの事業内容が国内外の経済情勢や相場環境によって大きな影響を受ける状況にあることから、業績を予想し開示することは難しいと認識しております。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

・会計処理基準に関する事項の変更

①当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）、並びに同規則第61条及び第82条の規定に基づき、当社グループの主たる事業である投信投資顧問業を営む会社の連結財務諸表に適用される「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に準拠して作成しております。

②所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号）及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第16号）を当連結会計年度から早期適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。これに伴う営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響はありません。

③当連結会計年度より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号）を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。これに伴う営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	10,409	15,833
有価証券	247	257
営業投資有価証券	4,798	6,153
短期貸付金	863	—
前払費用	230	236
未収入金	375	3,821
未収委託者報酬	532	574
未収投資顧問料	2,391	4,666
預け金	676	714
繰延税金資産	139	250
その他	1,066	667
流動資産計	21,730	33,176
固定資産		
有形固定資産	582	650
無形固定資産		
のれん	22,583	21,885
その他	145	173
無形固定資産合計	22,729	22,058
投資その他の資産		
投資有価証券	11,204	16,863
差入保証金	799	633
繰延税金資産	297	516
その他	50	158
貸倒引当金	△11	—
投資その他の資産合計	12,341	18,171
固定資産計	35,653	40,880
資産合計	57,383	74,056

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	2,200	2,506
1年内返済予定の長期借入金	2,000	2,000
未払手数料	317	437
その他未払金	803	1,613
未払法人税等	83	3,235
賞与引当金	692	323
繰延税金負債	126	201
その他	72	289
流動負債計	6,296	10,607
固定負債		
社債	5,000	5,000
長期借入金	10,000	10,000
繰延税金負債	149	165
負ののれん	—	598
その他	58	63
固定負債計	15,208	15,828
特別法上の準備金		
証券取引責任準備金	—	0
金融商品取引責任準備金	0	—
特別法上の準備金合計	0	0
負債合計	21,504	26,435
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,404	12,144
資本剰余金	14,291	14,030
利益剰余金	15,116	21,685
自己株式	△4,438	△4,438
評価・換算差額等	△2,890	1,077
その他有価証券評価差額金	△2,433	40
為替換算調整勘定	△457	1,037
新株予約権	94	45
少数株主持分	1,300	3,075
純資産合計	35,878	47,621
負債・純資産合計	57,383	74,056

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
営業収益	
委託者報酬	1,830
投資顧問料	8,617
営業投資有価証券評価損益	△1,199
その他営業収益	115
営業収益計	9,364
営業費用	1,750
一般管理費	10,317
営業損失(△)	△2,704
営業外収益	
受取配当金	184
受取利息	310
負ののれん償却額	116
雑収入	50
営業外収益計	662
営業外費用	
支払利息	204
為替差損	743
賃借料	124
雑損失	166
営業外費用計	1,238
経常損失(△)	△3,280
特別利益	
投資有価証券売却益	378
過年度損益修正益	79
賞与引当金戻入額	114
特別利益計	572
特別損失	
固定資産除却損	16
投資有価証券売却損	27
投資有価証券評価損	615
子会社整理損	58
経営構造改革関連損失	209
過年度損益修正損	70
特別損失計	998
税金等調整前四半期純損失(△)	△3,706
法人税、住民税及び事業税	445
法人税等還付税額	△459
過年度法人税等	△5
法人税等調整額	408
法人税等合計	389
少数株主損失(△)	△88
四半期純損失(△)	△4,007

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)、並びに同規則第61条及び第82条の規定に基づき、当社グループの主たる事業である投信投資顧問業を営む会社の連結財務諸表に適用される「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に準拠して作成しております。

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) 重要な後発事象

重要な子会社の株式の一部譲渡

① 譲渡の旨及び理由

平成20年12月19日に、当社及び当社の連結子会社であるSPARX International, Ltd. (以下、SIL) と韓国ロッテ各社が締結した株式譲渡契約に従って、平成21年2月2日に連結子会社であるCosmo Investment Management Co., Ltd. (以下、コスモ社。SILを通じた間接所有80.1%(当該譲渡前))の株式を一部譲渡しました。

これは、コスモ社の株式を共同で保有し、経営していくことを通じて、当社と韓国ロッテが提携関係を樹立し、韓国ロッテのグループ会社と連携した商品開発や、韓国ロッテが保有する不動産、余裕資金、流通網の積極活用などにより、コスモ社を韓国を代表する資産運用会社へと成長させるためであります。

② 譲渡する相手会社の名称

以下の韓国ロッテグループの7社であります。

- ・ Lotte Card Co., Ltd.
- ・ Lotte Shopping Co., Ltd.
- ・ Lotte Midopa
- ・ Lotte Station Building Co., Ltd.
- ・ Honam Petrochemical Corp.
- ・ KP Chemical Corp.
- ・ Lotte Confectionary Co., Ltd.

③ 譲渡の時期

平成21年2月2日(クロージング日)

④ 譲渡する子会社の名称及び事業内容

- ・ 子会社の名称: Cosmo Investment Management Co., Ltd.
- ・ 子会社の事業内容: 投資顧問(一任及び助言)業務

⑤ 譲渡する株式の数、譲渡価額、譲渡損益及び譲渡後の持分比率

- ・ 譲渡する株式の数: 177,689株
- ・ 譲渡価額: 62,901百万ウォン(約45億円。平成20年12月末レートにより換算)
- ・ 譲渡益: 約42億円(当年度の特別利益として計上予定であります。なお、当社英国連結子会社であるSILにより売却されることから、最終的な特別利益の額は、為替レート(円-ポンド)の変動による影響を受けます)
- ・ 譲渡後の持分比率: 59.1%(間接所有)

⑥ その他重要な特約等

本株式譲渡契約には、コスモ社の株式を段階的に取得する目的で、韓国ロッテがコスモ社の株式を、SILから購入することができるコールオプションを2個保有する契約が含まれています。

両方のコールオプションが行使された場合、今後予定されているSILによる他の少数株主からの株式買取と合わせて、最終的に、平成23年3月期において、韓国ロッテはコスモ社の発行済株式数の51%を保有することになり、SILは49%を保有することになる予定です。

6. その他の情報

運用資産残高の状況

以下の数値は、当社の持分に係らず運用資産残高の100%を記載しておりますが、連結損益計算書上は当社以外の出資者持分については少数株主損益が計上されます。当第3四半期末における当社の持分が100%未満のグループ会社は以下のとおりであります。

会社名	当社持分
コスモ社	80.1% (間接所有)

■会社別の内訳

①当第3四半期連結会計期間の月末運用資産残高の推移 (単位：億円)

会社名	平成20年10月	平成20年11月	平成20年12月
スパークス・アセット社	4,634	4,465	4,383
コスモ社	1,852	1,508	1,610
PMA社	1,884	1,695	1,540
合計	8,372	7,668	7,533

(注) 1. 金額は、時価純資産額であり、表示単位未満を切り捨てて表示しております。なお、上記金額は、各月末時点における実際の運用に係る金額のみではなく、コミットメント・ベース等により契約上運用報酬の算定の対象となる金額がある場合は、これを含め表示しております。

2. スパークス・アセット社のファンド・オブ・ファンズ投資戦略の平成20年12月末運用資産残高は速報値となっております。

②平均運用資産残高の推移 (単位：億円)

会社名	平成20年4-12月	平成19年4-12月	平成19年4月-平成20年3月
スパークス・アセット社	6,044	10,998	10,160
コスモ社	2,526	3,649	3,512
PMA社	2,294	2,470	2,524
平均運用資産残高	10,865	17,118	16,197

(注) 1. 各期の月末運用資産残高の単純平均であります。

2. 金額は、時価純資産額であり、表示単位未満を切り捨てて表示しております。なお、上記金額は、各月末時点における実際の運用に係る金額のみではなく、コミットメント・ベース等により契約上運用報酬の算定の対象となる金額がある場合は、これを含め表示しております。

3. スパークス・アセット社のファンド・オブ・ファンズ投資戦略の平成20年12月末運用資産残高は速報値となっております。

③成功報酬付期末運用資産残高及び比率の推移

会社名		平成20年12月	平成19年12月	平成20年3月
スパークス・アセット社	残高(億円)	2,199	4,430	3,607
	比率(%)	50.2	49.1	50.4
コスモ社	残高(億円)	1,440	3,153	2,553
	比率(%)	89.4	86.0	87.2
PMA社	残高(億円)	1,265	2,340	1,922
	比率(%)	82.2	77.1	75.1
合計	残高(億円)	4,906	9,924	8,082
	比率(%)	65.1	63.1	63.9

(注) 1. 金額は、時価純資産額であり、表示単位未満を切り捨てて表示しております。なお、上記金額は、各月末時点における実際の運用に係る金額のみではなく、コミットメント・ベース等により契約上運用報酬の算定の対象となる金額がある場合は、これを含め表示しております。

2. スパークス・アセット社のファンド・オブ・ファンズ投資戦略の平成20年12月末運用資産残高は速報値となっております。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

科目	前年第3四半期連結累計期間 自平成19年4月1日 至平成19年12月31日
	金額 (百万円)
I 営業収益	24,446
II 営業費用	3,160
III 一般管理費	14,679
営業利益	6,605
IV 営業外収益	856
V 営業外費用	430
経常利益	7,031
VI 特別利益	1,105
VII 特別損失	1,122
税金等調整前第3四半期 純利益	7,014
税金費用	3,243
少数株主利益	657
第3四半期純利益	3,113